

# NPO九州の新しい仲間です！帰国ほやほや！浦越さんから一言！！

はじめまして！2020年2月10日から九州海外協力協会で働いております、浦越未来(うらこしみき)と申します。2017年1月から今年の1月まで、JICA日系社会青年ボランティアの日系日本語学校教師としてブラジルで活動しておりました。任地では主に、日本からブラジルへの移住者の子ども・孫・曾孫にあたる方々に日本語指導を行っていました。

帰国後すぐということ逆カルチャーショックを受けることもまだまだある日々ですが、地元福岡で仕事ができることを嬉しく、また楽しみに思っております。南米の大自然に魅了されてきましたので、休みの日には日本の豊かな自然を味わいに行きたいなあなんてことも思っております。これからどうぞよろしくお願いいたします。



# 九州海外協力協会だより

2020年・春号

## 新年度もよろしくお祈りします

元号が「令和」になって最初の会計年度が終わりました。年度の区切りは3月31日と4月1日の間に、絶対に動かない「締切り」として存在しています。例年、年度末は会計処理に追われながら、「なぜ会計年度の区切りが3月末なのだ！」と、ほとんど八つ当たり等に等しい怒りを感じる時期でした。しかし、時間の経過とともに有無を言わず「終了する」という抗いようのない「区切り」に対し、今年は少しだけ好感を抱いているところ。世界中に感染者が広がる「新型コロナウイルス」の勢いはまだまだ衰えていないようです。全く先行きが見えないまま「自粛」を続けている現在の状況に、年度末のような時間的「区切り」が見えればどんなに楽だろうと妄想している今日この頃です。一日でも早くこの「騒動」が収束へ向かうことを祈りながら、令和2年の春を迎えています。今年度もどうぞよろしくお祈りします。

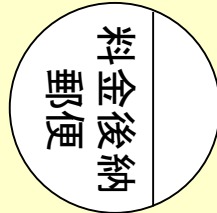
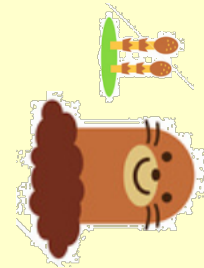
九州海外協力協会 事務局長 馬田 英樹



特定非営利活動法人九州海外協力協会



特定非営利活動法人九州海外協力協会  
〒812-0025  
福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503  
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304  
E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



## 《春号特集》 ぼくの、ともだち。



新学期が始まる春。新しい友人との出会いが楽しみです。当協会の職員は、JICAボランティアとして開発途上国で2年間活動し、生活をしていました。日本から離れ、見知らぬ国に暮らし、寂しい思いをしたこともたくさんありましたが、そんな時は寄り添ってくれた現地の「ともだち」がいました。今回の表紙特集ではそんな「ともだち」とエピソードを紹介します。

### 河野：カンボジア 学校の同僚ユウバイちゃん

私の職場、織物コースの隣のドレスコースの先生です。カンボジア生活で太っていく私の服を調節してくれていました。私の日本語の生徒でもあり、



向上心旺盛な彼女とは沢山の新作の洋服を作りました。一緒にいると「姉妹か？」と聞かれることも多く、私より色白でよく日本人に間違えられていました。今でも大好きな妹のような存在です。

### 浦越：ブラジル ポルトガル語の先生アンドレーザ

「外国人に教えたことはないから不安だけど私にとっても良いチャンスだと思うから。」そうやって個人レッスンを引き受けてくれたのは現地の小学校教師、アンドレーザ。

授業のほか、ブラジル料理の作り方を教えてくれたり夕食や遊びに誘ってくれたり。いつの日か会いに行きたいです。



### 米村：ミクロネシア クラスの生徒ではないエリンソ

「チュンペイ！」と叫びながら、授業時間が終わると、いつもいつも私の教室に遊びに来てくれたエリンソ。ポンペイ語は彼から学んだといっても過言ではありません。一緒に帰るために私の仕事が終わるまで、教材で一人遊びをしたり、教室を掃除をしてくれたりして待っていてくれました。

「日本ってどこにあるの？あの道をずっと行ってもっと向こうの方？」と聞いてきた彼のまなざしが忘れられません。



### 橋口：エルサルバドル 男の子から買った犬

私のともだちは、3ドルで買った中古のぬいぐるみです。配属先前の路上でいつも同じ男の子がぬいぐるみを売っており、期待の目で見られるため、時々実家の犬に似たものを買って、愛でていました。増えたぬいぐるみの多くは帰国時に友人に譲り、写真は唯一、連れて帰ってきた1匹です。でも『思い出のともだち』は実はぬいぐるみを売っていた男の子だったのかも…。



### 馬田：ブータン ブレンドン・グリーン

私が紹介する友だちは、Mr. Brendon Greenです。彼はニュージーランド人で、VSA (Volunteer Service Abroad) のボランティアでした。私とは派遣された時期がほぼ同時で、なぜか仲良くなり、よく私のアパートに泊まりに来ていました。トレッキングも一緒に行きました。彼は残り任期を半年ほど残して帰国しましたが、帰国時には彼のマウンテンバイクを私が譲り受け、しばらく通勤や買物に使用していました。また会いたいです。



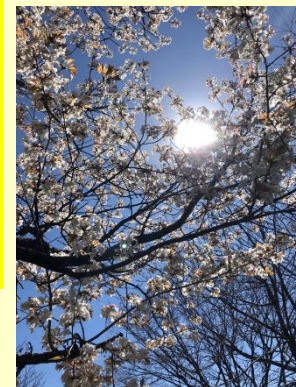
## (特活)九州海外協力協会 ☆会員募集中☆

当協会では、活動に御賛同いただける団体・個人の皆様を募集しております。会員の方には四半期毎に発行しております「九州海外協力協会だより(本紙)」をお送りさせていただいているほか、当協会主催、共催のイベント情報などをご案内しております。ご関心のある方は、以下へお問い合わせ下さい！

発行 特定非営利活動法人九州海外協力協会  
〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503  
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304  
HP: http://www.npo-kyushu.or.jp/ E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



### Instagram インスタ的な



集団イベントだめ。集団スポーツだめ。ジムもだめ。ランニング中に川沿いの公園に見つけた気の早い桜です。

- #ジムに行かなくても
- #工夫すれば
- #いろんなトレーニング
- #できるよ
- #坂ダッシュしんどい
- #けど効果的
- #春よ来い





# 春号特集！！「住む。」



当協会職員が海外ボランティア時代に住んでいた家を紹介。国や地域によって住居や生活様式は様々。海外ボランティアたちはどんなところに暮らしていたのでしょうか。

## ミクロネシア連邦

■海辺の**ホテルの倉庫**に家具を置いて住まわせてもらっていました。小さなワンルームで、トイレ・シャワーは従業員と共用で、たまに天井から謎の水が垂れてきましたが、プライバシーと大きな窓と冷蔵庫のある暮らしに満足でした。職場の学校までは自転車で片道15キロでしたが、運動不足になりやすい島ではいい運動でした。**外には大きなマンゴーの木**があって、季節になると明け方、トタン屋根にマンゴーが落ちてくる「バーン！」という音でびっくりして起きていました。**インターネットが当時は非常に高く**、娯楽のない島でしたから、休日は釣りや自転車の整備（とても大切！）や、ジム（人の家）でトレーニングをしていました。 米村



入り口ギリギリから撮った写真。これが部屋の全て。ここが部屋です。2階はテラスで旅のサーファーがテントに寝泊まりしていました。

## ボリビア

■私は首都**ラパスにあるマンション**に住んでいました。部屋にはユニットバスもついていて、電気温水シャワーがあるのですが、水量を上げると水しか出ず、**お湯を出そうとすると「ぼちよ、ぼちよ」程度しか出ませんでした**（そして時々、感電）。一年中寒い当地で、この温水シャワーを使うと更に寒くなり、お風呂タイムが生活の中で一番辛かったものです。小高い丘のような場所に建つマンションからの眺めは素晴らしく、ラパスのシンボル・イリマニ山（標高6439m）が美しく見え日々癒されていました。ただ、現地ではイリマニが見える部屋は日が差さない**「寒い部屋」と**言われていることを、任期の最後の方に知りました…。 橋口



すぐに壊れる恐怖シャワー

町の奥に見えるイリマニ山

## カンボジア

■私の任地カンポットはフランス植民地時代の**「フレンチコロニアル様式」の街並み**が残っています。私の家も同じ様式で、**中庭があり**（雨の時は家の中を移動するのに濡れる）季節の花が咲き乱れる**素敵な家**でした。川に面した窓を開けるとコンボンベイ川に沈む**夕日が見え、絶景**です。夕方に自分の部屋の窓を全開にして、夕日を眺めながら**アイスクリーム屋さんやパン屋さん**が通りかかれば、声をかけるという毎日を過ごしていました。 河野



家の外観と当時の私。季節になるとブーゲンビリアが咲き乱れます。

目の前にはこの景色！！

## ブラジル

■2階に大家さん、1階に数世帯が住む小さなアパートで、活動から帰ると大家さんの飼い猫のプレット（Preto：ポルトガル語で「黒」という意味）がよく家の扉の前で待っていました。扉を開けると、ダイニングキッチン。その横に洗濯室、シャワールーム、奥に寝室という間取り。冬になると**気温が氷点下にもなる任地でしたが、寒さに強くない造り**の建物。特にタイル張りの床の冷えることと言ったら！「薪を焚けば暖かくなるよ」と言われても**暖炉も薪のコンロもない**私は、まわりのおうちの煙突から出る煙を見つどうすれば暖かく過ごせるか工夫を重ねる日々でした。 浦越



玄関前で待つPretoと近所の猫

# 英語教育になりがちなグローバル教育を変えたい！ 当協会オリジナル！“講師派遣事業”をご存じですか？

当協会では国際・異文化理解の促進や開発教育を実践している学校や企業に**講師派遣**を行っております。教育現場ではグローバル教育を取り入れ、地域社会でもグローバル化を推進しています。九州でも国際的なスポーツの大会など、日常生活の中で海外の方と触れ合う機会も多くなってきました。そういった中でみなさんが一番に思い浮かぶのが**「英語ができない」とコミュニケーションが取れない！英語教育が大事だ！**という思いではないでしょうか。しかし、来日する方は英語圏だけからやって来るわけではありません。私たちも、海外旅行をするときには他の言語よりは義務教育で勉強した「英語」の方が理解できるというだけで、英語が得意じゃない方のほうが多いはず。

**では、皆さんが目指す「グローバル人材」とはいったいどういう人のことをいうのでしょうか？本当に英語ができればグローバル人材になるのでしょうか。**

当協会の講師派遣で実施する講座では、**自分たちの中にある問題や課題に気が付くこと**を共通の目的として内容を組み立てています。人に押し付けられた課題や問題ではなく、自分自身で課題・問題に気が付くことが出来れば、自ずと解決に向けて**小さくても行動に移す**ことが出来るようになります。

**「グローバル社会に対応できる人材育成」という曖昧で大きな目標**で悩んでいらっしゃる方は是非一度、ご相談ください！



★予算や時間、ねらいに合わせてオーダーメイドします！ホームページお問い合わせからご連絡ください！★

# 私の任国自慢！：～コロンビア共和国～



南米ラテンの国「コロンビア」 さあ、皆さんのイメージは？コーヒー、エメラルド、美女、麻薬、ゲリラ……。良いこと、悪いこといろいろ。ごちゃまぜの国ということですかね。赤道直下の国は暑いイメージ？でも、高度が変われば、温度は変わりますよね。国土が日本の3倍で、アンデス山脈を抱えるコロンビアは、きれいなカリブの海が見られる海岸地帯に行けば真夏！高度を2000mほどに上げると常春のエリアに、もっと高度を上げると雪山に……。そんな国なんです。僕は隊員時代2100mのコーヒー地帯で活動していましたが、週末はちょっと高度を下げて、あったかところでバスケットボールをして、うまいビールを飲んで、踊っていました！

小田哲也氏→青年海外協力隊・コロンビア・青少年活動で活躍。九州海外協力協会理事。



かわいい教え子たち。小田さんは右端

陽気なラティノが多いコロンビア！ぜひ行って踊ってみてください！



豚一頭丸ごと！コロンビアのご飯は豪快です！

任国自慢をしてくれる方を募集中です！我こそは！という方はご連絡ください！！